

『水都大阪2009』最終日 新たな水辺の賑わいに多数の市民

「川と生きる都市・大阪」をテーマに、52日間にわたって開催された『水都大阪2009』。その最終日の10月12日、大川・八軒家浜会場では、大阪21世紀協会主催イベントが多くの市民で賑わいました。

「川とともに生きる都市・大阪」をアピール

OSAKA水上音楽パレード2009

大阪市内の河川を航行するあらゆる種類の船舶が、大川・八軒家浜界隈でパレードを繰り広げました。四条畷学園高等部および大阪市立扇町総合高校吹奏楽部が乗船する4隻を先頭に、軽快なメロディーに乗って34隻の船が続ぎ、多くの市民が見守るなか「水の都・大阪」を大いにアピールしました。また、その後、両校吹奏楽部を乗せた一部の船が道頓堀まで進み、大川同様の演奏を披露しました。



大川(八軒家浜棧橋)

新たな水辺活用で文化の夢ふくらむ

新作能「水の輪」

大阪の能楽師・山本章弘氏と現代美術家・井上信太氏とのコラボレーションによる新作能が、八軒家浜棧橋に接岸された「ひまわり」の船上に設けられた舞台上で披露されました。淀川を舞台に淀川の浄化を訴える物語で、一般募集した約20名の子どもたちも参加。子どもたちは事前のワークショップで制作した衣装や天冠で水鳥に扮装し、650年の伝統をもつ能に大阪弁で登場しました。夕暮れの八軒家浜棧橋付近は約3000人の見物客で埋め尽くされ、水辺を活用した新たな文化活動の夢をふくらませました。



前シテ(樟サス女)・後シテ(水神)山本章弘氏、
アイ(水鳥)小笠原匡氏他

スポーツを通じた交流で“包み込む社会”の促進を!

2010年 第5回スペシャルオリンピックス日本 夏季ナショナルゲーム・大阪 開催!

<2010年11月5日(開会式)、6~7日(競技)>

知的発達障がいのある人たちに年間を通じてスポーツ活動の機会と競技の場を提供し、自立と社会参加を応援する国際的なスポーツ組織・スペシャルオリンピック(本部・米国ワシントンD.C.)。1962年に故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー婦人が、自宅の庭を知的発達障がい者に開放したデイ・キャンプが始まりで、彼女の姉・ローズマリーも知的発達障がい者でした。その後、全米で組織化され世界へ拡大。88年には、国際オリンピック委員会と「オリンピック」の名称使用や相互の活動を認め合う議定書が交わされています。現在、175の国や地域が加盟し、約310万人のアスリートと75万人のボランティアが活動に参加しています。

日本への導入は1980年。94年には国内本部「スペシャルオリンピックス日本(SON)」が発足し、2001年には特定非営利活動(NPO)法人の認証を受けています。現在、有森裕子氏(本誌表紙)が理事長を務め、全国各地でスペシャルオリンピックスの認知を高める活動を行うとともに、大阪での全国大会開催に向け広く支援を呼びかけています。

大阪大会は「なにわに集え 挑戦者! 夢と勇気をもって! ~自分へ、チャレンジ。明日へ、チャレンジ~」をスローガンに、アスリート1000人が舞洲アリーナなど府内各所で、水泳、体操、陸上、サッカー、バレーボールなど12競技に挑戦。2011年6月にギリシャ・アテネで開催される『2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会・アテネ』の国内選考もかねて開催されます。また、今大会はすべてボランティアによって運営されるため、SONでは資金調達も含め多くの人の支援を呼びかけています(問合せ: ☎06-6444-3550・FAX06-6444-3552 / 「2010年 第5回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・大阪」実行委員会)。

表紙の顔
有森裕子氏



SONへの支援を呼びかける有森裕子氏
(2009年10月11日/御堂筋kappoにて)